

# 人 × まち = 未来

## 甲冑武士がいざなう 浪漫街道・黒崎宿

黒崎宿400年の歴史が甦ります!

なんと、いつも



◆ 筑前黒崎宿場まつり 実行委員会 森 敏明

### 大河ドラマで注目 観光PRで魅力発信

毎年10月上旬に開催される「筑前黒崎宿場まつり」は、宿場町の魅力をまちづくりに生かそうと平成元年から始まりました。最大のみどころは、地元の方々が甲冑姿に扮した「筑前黒崎黒田二十四騎」の勇壮・華麗な演舞と武者行列。自身も甲冑姿でまちを練り歩いたという実行委員会会長の森さんは「甲冑は20kgほどあって結構大変。でも、大人も



▲甲冑武士の勇壮な演舞

子どもも喜んでくれるし、目で見て歴史を感じてもらえることが嬉しい」と目を細めます。昨年は北九州市制50周年や大河ド



▲黒田二十四騎の勢ぞろい

ラマの効果もあって規模を拡大し、「黒崎宿秋のにぎわい祭り」と銘打ってたいへんなにぎわいを見せました。「今後も昨年に負けない規模で盛り上げていきたいですね」。

今年2月には、八幡西区役所や企業、黒崎商店街、各種団体と連携して「長崎街道黒崎宿PR推進委員会」が発足しました。その会長も兼務する森さん。官兵衛人気にあやかって展開された昨年の観光PRや集客活動を継続し、多角的に発展させていこうです。「黒崎の歴史と宿場町の雰囲気に惹かれて多くの人々が訪れるようなまちにした」と意気込みを語ってくれました。

## 受け継がれていく 木屋瀬の歴史遺産

みんな 木屋瀬のまちが大好きなんです!



◆ 長崎街道木屋瀬宿 記念館運営協議会 松尾 洋輔

### 筑前六宿をつなぐ 次世代への伝承の輪

かつて宿場町として栄えた木屋瀬。その本陣・脇本陣跡地にあるのが長崎街道木屋瀬宿記念館です。管理運営を行う同館の運営協議会は、「筑前木屋瀬宿場まつり」をはじめ、さまざまなまちづくり活動にも積極的に取り組んでいます。「街道の存在がまちの人をつないでくれています。色々な団体が協力し合い、次を担う若い世代も育っている。それが自慢です」と理事の松尾さん。



▲白熱する歌留多大会

街道の歴史を楽しく学べる「木屋瀬いろは歌留多大会」は今年で14回を数えます。また昨



▲六宿が集う子どもサミット

年は長崎街道筑前六宿開通400年を記念して、筑前福岡領内の六つの宿場町の小学生による学習発表会「筑前六宿子どもサミット」を初開催しました。実はこの催し、木屋瀬小学校が毎年行っている学習発表会から派生したもの。「地域の歴史を学ぶための発表会が、親御さんと関係者にとっても好評でした。それを広げようと六宿の方々に声をかけたんです。大切なのは、子どもたちに歴史や伝統行事を伝えていくこと。今後もサミットを続け、六宿の連携を深めていきたいですね」。木屋瀬ならではの伝承の取り組みが、地域を越えて広がっています。

西区の発展やにぎわいづくりを目指し、情熱的に活動する人々。未来を創造する開拓者がここにいます。



▲通りの文化祭オープニングセレモニー

### 朝市と買い物バス運行を実現 一戸一美運動で華やぐまちに

毎週月曜の朝10時、楠北のとある一角に多くの人々が集まってきました。楠北自治区会が主催する楠北ふれあい朝市です。肉や魚、地元で採れた野菜などを求め、近隣の皆さんが利用しています。この朝市が始まったのは平成23年5月、地区にあった唯一のスーパーが閉鎖したことがきっかけでした。「買い物に行くにも電停が遠く、高齢者が不便を強いられました。そこで、自治会として対策を講じ、地元企業や出店者、地域の方の協力を

## 買い物弱者支援で コミュニティに活力を!



▼ふれあい朝市の買い物風景

得て、週1回の朝市開催と買い物バス2便の運行を実現させたいです」と会長の松尾さん。

今では、朝市は100名以上、買い物バスも30~40名の方が利用し、ご近所さんやお店の方と顔を合わせるのが楽しみになったと喜ばれているそうです。

また、昨年11月には、一戸一美運動と銘打って「通りの文化祭」を開催。通りを舞台に、玄関先や家のまわりを花や趣味の作品で飾りました。「来年は地域全域を会場にしたい。お互いの顔が見える、そんな安心で安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思います」。

4月には香月西部市民サブセンターが完成し、コミュニティに新たな交流拠点が誕生します。

「お互いの顔が見える」それが活動の信条です。



◆ 楠北自治区会 松尾 一四

## めざせ! 日本一のほたるの里

黒川の自然を守り、ほたるをもっと増やしたい。

実施など、ほたるの保護・育成に取り組んでいます。特に力を注いでいるのは、小学児童への啓発。一緒に川を清掃したり、ほたるの幼虫を放流したり、子どもたちにほたると自然環境を守る大切さを伝えています。毎年2月末には地元6校の小学生による研究発表会も実施。驚いたことに、そこには韓国のほたる保護団体の方も参加されていました。「子どもたちを連れて韓国に発表に行ったりもします。ほたるを通じた国際交流は全国的にも珍しいと思いますよ」とのこと。「活動の和が広がるのも地域の方々の応援のおかげ。日本一のほたるの里をめざして、これからも美しい環境を守っていききたいと思います」。



▲ほたるの幼虫放流会



◆ 香月・黒川ほたるを守る会 岩本 正